

全柔連発第 19-0262 号

2019年 6月 26日

都道府県柔道連盟（協会）

会 長 殿

安全指導員 殿

重大事故総合対策委員会

委員長 磯村 元信



熱中症の予防対策について

平素より当連盟事業にご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。熱中症に対する十分な備えを必要とする時期となりました。熱中症による事故を防止するため、指導者の方は予防対策、症状、対処法について、別添資料を活用するなど競技者、保護者等に周知徹底していただくようお願い申し上げます。

裏面は、熱中症の予防対策の徹底ポイントです。別添資料「熱中症を防ごう」とともにプリント・アウトして道場や更衣室等に掲示するなどして注意喚起の徹底をお願いします。なお、全柔連ホームページにも同様の資料をUPしています。

熱中症を防ごう（徹底ポイント）

公益財団法人全日本柔道連盟では、スポーツを取り巻く環境の変化や、熱中症による重大事故の発生を重く受け止め、以下の熱中症の予防対策の徹底をお願いしています。重大事故ゼロを目指して、常に注意を喚起するよう周知徹底を図っていただければ幸いです。

○温度と暑さ指数（WBGT）を常に把握し、予防指針を守ろう。

熱中症は室内でもよく起こります。必ず、道場に温度計と WBGT 計を設置してください。最近では、気温・湿度・WBGT 値が同時に計測できる機器なども、通販などで比較的安く入手可能です。熱中症予防指針を遵守して、危険段階となったら練習を行わないことが大原則です。練習開始後に一気に気温が上がることもあります。常にチェックする心構えも大切です。

○こまめに休憩をとり、水分と塩分を補給しよう。

のどが渇いたと感じた時には、すでに脱水症状が始まっています。いつもより濃い尿の色も脱水のサインです。思考力が低下して不慮の事故の危険性も増します。適宜休憩を取り、運動をはじめる前から適切な水分・塩分補給を心掛けましょう。

○個人の条件にも十分に配慮し、早めの対応で事故を防ごう。

普段は暑さに強い人でも、急に暑くなったときや蒸し暑いとき、体調の悪い時には熱中症にかかりやすくなります。また、肥満傾向のある人も熱中症にかかりやすく、体力が十分でない人、暑さになれていない人も、体温調節がうまくできないため、熱中症にかかりやすくなります。熱中症の症状はさまざまです。このため気付くのが遅くなりがちです。治療の遅れは多臓器にダメージを与え、取り返しのつかない結果につながる場合があります。冊子「柔道の安全指導」第四版の 41-44 ページに、熱中症のことが詳しく載っています。日頃から冊子で熱中症の症状と対処法についてよく学び、お互いの体調に気を配り、早めの対応で事故を未然に防ぎましょう。

【熱中症への対応】



（日指導員柔道テキストより）

【熱中症の救急処置】



嘔吐、めまい、失神、筋肉痛、筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛、気分不快、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、意識障害、昏厥、手足の運動障害、高体温

（柔道の安全指導第四版より）